

## 令和7年度 第2回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答(%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 教育目標や教育方針の伝達	97	99	100	生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。生徒で見ると「そう思う」と回答した生徒が47.6%、「だいたいそう思う」と回答した生徒が49.0%であった。これは、始業式や終業式などの行事毎に学校教育目標について繰り返し話をしたためだと考える。また、ウェルビーイングについての職員研修を行い、具体的な職員の行動について考えを深めることができたため、生徒に具体的にわかりやすく伝えていくことができた。今後も行事等で全体に向けて話をするときや、学級や班、個人で目標を立てる際に、教育目標を確認しながら作成することでより生徒に浸透させていく。
【設問2】 情報発信	96	100	100	生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。保護者と職員で100%となったのは、各種たよりとウィークリー西中を中心に配信メールを効果的に活用した結果だと考える。また、生徒への配付物について保護者にも情報を知らせるなど、生徒と保護者に同じ情報が伝わるようにしたためでもある。今後も家庭への発信はこれまで通り継続し、生徒へは朝の会や帰りの会で連絡を確実にするなど積極的に行っていく。
【設問3】 相談への丁寧な対応	93	96	100	生徒、保護者、職員ともに肯定的な回答であった。各学期はじめ（長期休業明け直後）に行われる教育相談、毎月はじめに取り組む生活アンケート、スクールカウンセラーとの全員面談、日常的な教職員の見守り、トラブルの防止・早期発見・丁寧な対応を教職員が心がけていることの効果であると考え。しかしながら、生徒の7%、保護者の4%は不十分ととらえていることがわかるため、今後は更に生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を獲得する努力を継続するとともに、相談一つ一つに丁寧に対応できる協力体制づくりを確立していく。
【設問4】 わかりやすい授業	93	96	100	生徒の回答を見てみると、「そう思う」と回答した生徒が、1年生は40%、2年生は45%、3年生は40%だった。ただ、「ややそう思う」も含めるとどの学年も9割以上の肯定的な回答である。1学期よりも学習内容が難しくなることも要因の一つだと考えられるが、生徒が分かるまで粘り強く授業者が教えていることが推察される。 3学年では受験も間近に迫り、回答を求める生徒も少なからずいるが、生徒自身が課題解決できるような支援とバランスを取りながら、生徒が主体的に自ら学ぶ授業づくりに向けて継続した改善を図っていく。
【設問5】 学力向上のための授業の工夫 補習等	96	97	100	1学期と比較しても、生徒・保護者・教職員ともに肯定的な回答が増加した。定期テスト前の放課後の補習の時間や授業内でも振り返りの時間を大切にしていることで、学力の定着に向けた取り組みが評価されたものと考え。 今後は生徒や保護者、教職員の意見を反映させながら、復習のタイミングや確保する時間の量について検討していくとともに、補習の時間の確保も行っていき生徒の学力向上へつなげていく。
【設問6】 適切な評価	96	98	96	職員において4%が「あまり思わない」と回答している。これまで全体としての評価項目や評価基準についての研修を進めてきたが、今後は生徒個人の評価・評定、その具体について研修を進める必要がある。
【設問7】 授業や進路に関わる質問への丁寧な対応	94	95	100	特に1年生の否定的な回答が目立つ。1学年では具体的な進路よりもキャリア教育に重点を置いていることの説明が不十分であると分析する。それぞれの学年では、キャリア教育の一環として総合的な学習の時間を活用し、1年次に地域の職人を講師に招いた「職業人に学ぶ」、2年次に地域の職場に赴く「職場体験学習」と高校の先生を講師に招いた「専門学科を体験しよう」、3年次に卒業後の進路選択に向けた「進路説明会」を開催することで、進路についての意識付けを行っている。3学年では、高等学校の説明会や体験等の案内を配信メールで配信するとともに、進路室や学級掲示にて確実に周知している。授業内容に関する質問等については、机間指導等をより充実させ、質問しやすい雰囲気づくりと時間の確保をしていく。

設問項目	肯定的回答 (%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問8】 学校設備	75	93	78	<p>1学期と比較して生徒の肯定的な回答が大きく減少した。特に2学期は総合の時間を活用してプレゼンテーションを行う際に、G I G A端末の使用回数の増加、電子黒板3台の活用率の増加が見られた。調べ学習の際にネット環境の接続に遅れや切断等が生じたことも原因の1つである。</p> <p>また、冷暖房設備、電子黒板の配置数、インターロッキング等敷地内の凹凸の整備等が職員から課題として上げられている。これらについて、継続して市教育委員会へ改善を強く要望し、よりよい学習環境に向けた整備を行っていく。</p>
【設問9】 学校生活	94	91	100	<p>生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。生徒で見ると「そう思う」と回答した生徒が57%、「だいたいそう思う」と回答した生徒が37%であった。これは、1学期にスポレク祭や校外学習、自然教室、修学旅行などの行事が行われたため、充実した学校生活を送れたのではないかと推測できる。</p> <p>しかし、否定的な回答が6%あるので、生徒理解をより深め、小さな変化や心配事等、速やかな初期対応につなげられるよう、教育相談等を活用して個々に対して組織的で丁寧な対応を行う。また、保護者に対しても、学校での生徒の生活が伝わるように、行事の写真を掲載するとともに、フリー参観や発表会等で学校に足を運んでもらえる機会を増やす等、計画していく。</p>
【設問10】 豊かな心の育成	93	97	100	<p>1・3学年の生徒で否定的な回答が見られた。職員が、道徳、学活、総合的な学習の時間を含めた授業内で生徒自らが心を豊かにするために、教材研究に取り組み、考える時間と他の意見を共有する時間を十分に確保するなど、更なる成長を支援していく必要がある。また、心に響く教材等の発掘が必要である。</p> <p>現在行っている、休み時間や登下校の見守り、休日における過ごし方の指導・助言等に加え、朝の会と帰りの会を活用し様々な角度から生徒の豊かな心の育成を行っていくよう、計画的で組織的な支援体制を整えていく。</p>
【設問11】 いじめ防止	89	96	100	<p>これは設問10と同様、1・3学年の生徒で否定的な回答が見られた。いじめを未然に防ぐための指導と事後指導が不十分であるためだと分析できる。教職員は生徒間のトラブルに個別に丁寧に対応している。しかしながら、学級・学年全体での指導を振り返った際には、すべての生徒に十分な指導・支援を行えてない場面もあった。</p> <p>今後はいじめ未然防止の動画等を視聴するなど、いじめや暴力は絶対に許されないという環境づくりを継続し、教育相談や生活アンケートの実施や隙間のない教員配置によりいじめの早期発見に努め、学校と家庭で連携しながら丁寧に対応していく。</p>
【設問12】 間違った行動への指導	91	96	100	<p>1・3学年の生徒で否定的な回答が見られた。継続して見守りに取り組みながら、間違った行動に対して、今後も毅然とした態度で指導するとともに、生徒の話にもしっかりと耳を傾け、成長を促していくことで、間違った行動に対する生徒集団の自浄効果が高められるような個人・集団の育成も行っていく。</p>
【設問13】 特別支援教育を含む生徒支援	92	93	100	<p>3学年の保護者の肯定的な回答が第1回と比較して減少した。これは中学校卒業を控えた進路選択に際し、教職員の理解不足や支援不足から家庭において不安を感じたためだと分析する。</p> <p>これからも生徒それぞれの学習のニーズに合わせ、今まで以上に一人一人に寄り添い、指導や支援をしていくとともに、特に3年生は進路相談も活用し一層の支援と家庭との連携を増やしていく。</p>
【設問14】 あいさつ	88	86	91	<p>1学期と比較すると、生徒は継続して積極的にあいさつをしている。また、外部講師を招いたキャリア教育でも、あいさつについて褒められている。しかし、生徒は社会とのつながりをもつことで、自身のあいさつについて振り返り、よりよくしようと考えた結果と分析する。</p> <p>西中PRIDEの1つであるあいさつの奨励について継続して行っていくとともに、TPOに合わせたあいさつの仕方についても繰り返し説明し、安心で明るい学校づくりをすすめていく。</p>
【設問15】 交通安全	96	88	96	<p>生徒自身は注意しながら登下校していると回答しているが、その程度は車を運転する保護者とわずかに食い違いがあると考えられる。実際、学校から離れたところで、並列走行や無理な追い越し等が見られている。今後も継続して早帰りの日や部活動休養日等に安全指導の巡回や見守り等を実施していくことで注意を促していく。また、生徒自身が加害者にも被害者にもならないよう、学級でも継続して安全指導を行っていく。</p>

#### 設問6

職員において4%が「あまり思わない」と回答している。2学期に評価についての研修を行い、評価項目や評価基準について共通理解を図り、教科の特性を踏まえながら適切に評価できるよう取り組んでいる。今後も丁寧に生徒に説明しながら定期テストや小テストを含めた生徒の活動の評価を行い、校内研修を毎学期行い適切な評価が行えるよう努めるとともに、三者面談や通知表でその成果と課題をわかりやすく丁寧に伝えていく。